

授 業 科 目 名	日常生活活動学実習	授 業 形 態	演 習
		配 当 学 期	2年（後期）
担 当 教 員 名	成瀬 信平	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADLを生活・活動と捉え、プログラム立案のための方法論を学ぶ。 （評価のポイントと作業療法士の視点を理解する、ADL訓練の目的を明確にする） ・ADL訓練の実際を学ぶ。 （個々の方法と技術を知る、ADLの基本となる機能を再確認する） ・QOLの具体的方法と技術について学ぶ。 （地域でいきいきと暮らすことの実現に向けたアプローチを考える） <p>〔学習目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士としての介入・評価からアプローチまで理解できる 		
授業回数	授業内容		
第 1 回	脳卒中片麻痺者の基本動作①		
第 2 回	脳卒中片麻痺者の基本動作②		
第 3 回	脳卒中片麻痺者の食事動作①		
第 4 回	脳卒中片麻痺者の食事動作②		
第 5 回	脳卒中片麻痺者の食事動作③		
第 6 回	脳卒中片麻痺者の排泄動作①		
第 7 回	脳卒中片麻痺者の排泄動作②		
第 8 回	脳卒中片麻痺者の排泄動作③		
第 9 回	脳卒中片麻痺者の更衣・入浴動作①		
第 10 回	脳卒中片麻痺者の更衣・入浴動作②		
第 11 回	脳卒中片麻痺者の生活関連動作①		
第 12 回	脳卒中片麻痺者の生活関連動作②		
第 13 回	脳卒中片麻痺者の生活関連動作③		
第 14 回	各疾患の日常生活活動①		
第 15 回	各疾患の日常生活活動②		
評価方法	レポート課題（100%）		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 I・ADL作業療法の戦略・戦術・技術 第3版 （三輪書店）		
	〔参考図書〕 ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版（医学書院）		
履修上の 留 意 点	疾患・障害学の基本的な知識については、各自、授業前に整理し授業の準備をすること		
メッセージ	障害像をイメージしながらの学習となるため、ややもすれば、概念だけで実際の評価・プログラムの立案に結びつかない。対象者の日常生活活動の障害をとらえるときに、その疾患の特徴的障害と結びつけるため、事前に障害別の学習をした上で授業に出席してください。		